

成年向け

フジヤン著
Fujibayashi

2



日生

十三

五

くす

星
く
す
☆
ナ
ミ
ダ
2

2



日
生

く
あ



十

三
万



…
一緒に風呂
…に入る…？

卒業式の前日…
俺と桐乃はセックスをした

「どんな顔で話せば
良いかわかんない」
なんて言ったくせに
あのときの桐乃は
全然いつも通りで…



「冗談♪
冗談♪
冗談♪」

結局一緒に風呂には入れず
しまったよ…

でも俺は…そんな桐乃の
態度を見てホッしていた

もし桐乃とギクシヤク
したままになってたら
結婚式どころじゃ
なくなってたからな…



翌日も桐乃はいつも通りで…
見たらどう？あの悪態を…
麻奈美に対するあの悪態を…

麻奈美が殴ったのも
まあ必然だよな
…いやそりゃあ
めっちゃ驚いたけど…

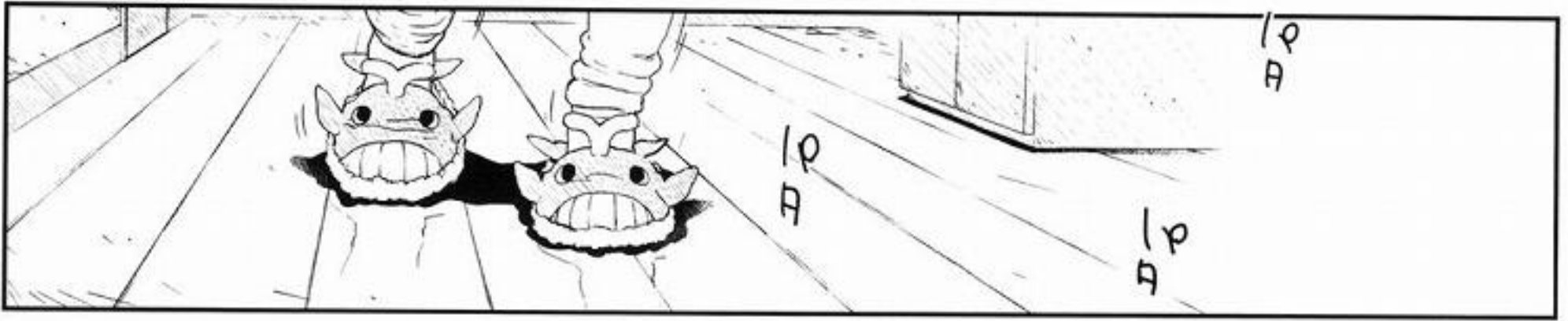


指輪もあっさり返してきて…
あれで俺たちは普通の兄妹に
戻った

ってなれてたら
もう語ることはなかった
のかもしれない…

でも…そうじゃなかった
んだよな…
俺たちが兄妹の話には
続きがあったんだ

これは：俺と桐乃が二人きりの
結婚式を挙げた：そのあと——
俺たちの話を知ってる人には
卒業式と『オタクっ娘あつまれ！』
のオフ会の間にあった出来事って
言えば分かりやすいか？
そのときの話を少し：語っていかうと思う





結婚式を終えて
桐乃の態度が急に
おかしくなつたんだ

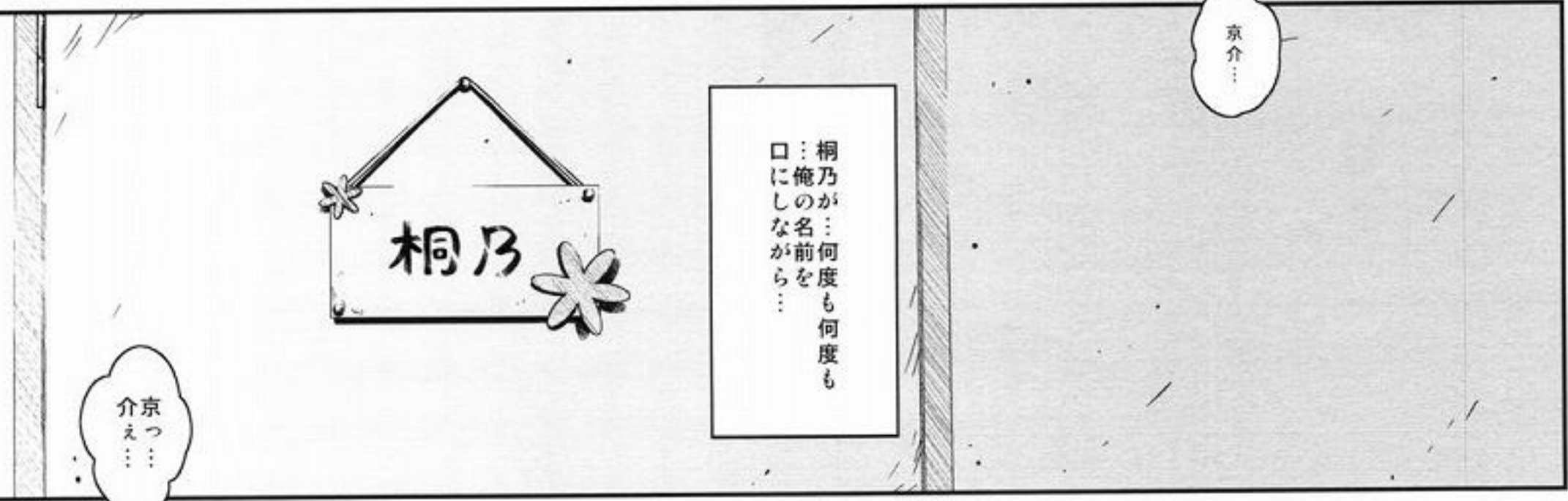
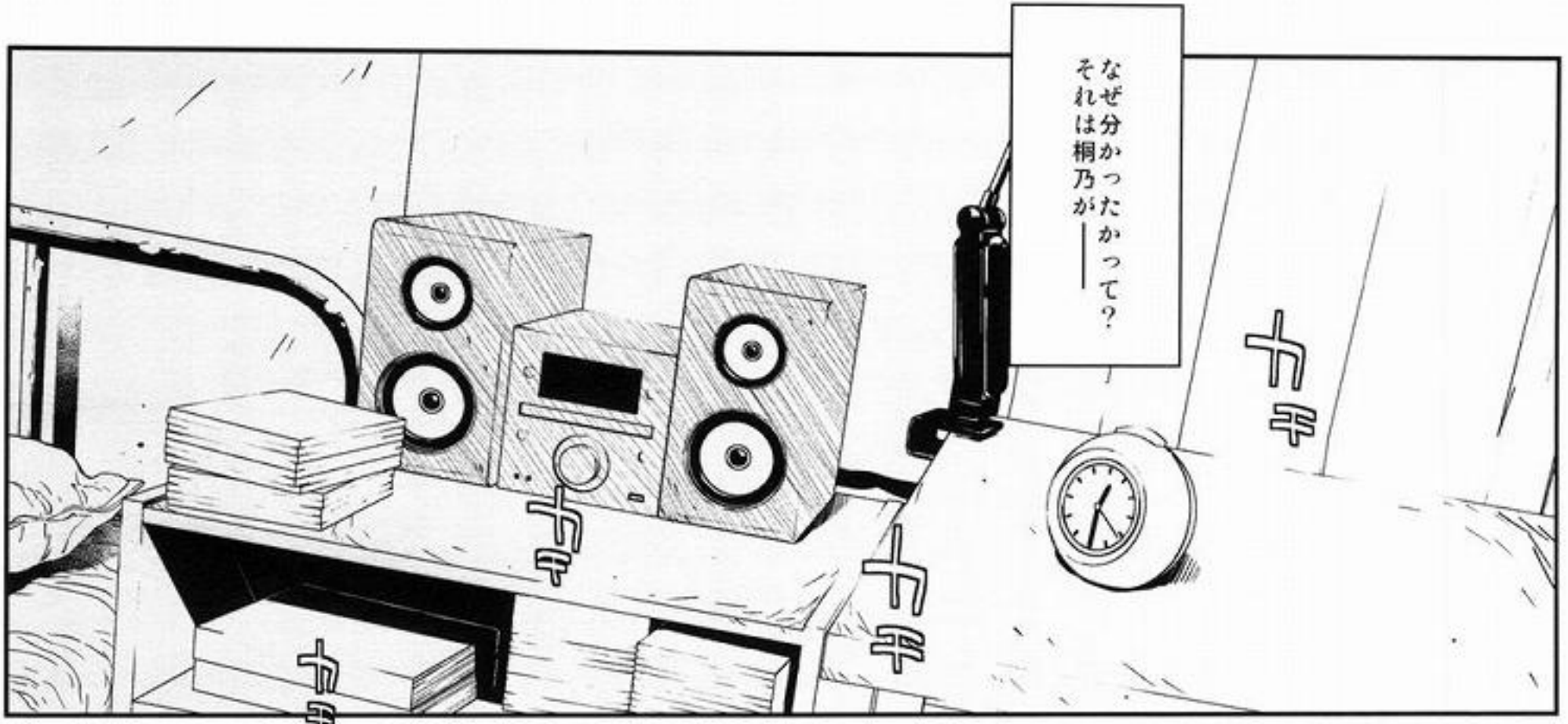


俺が話しかけても目を
合わせたくれなくなつて
なつちやっつたんだよ



でも：嫌われてるわけ
すくに分かった





オナニーをするように
なっていたからだ
しかも卒業式の晩から
毎日欠かさずに

京…介っ

この うっすい壁のせいで
桐乃がマンコ擦る
クチュクチュって音まで
はつきり聞こえるんだぜ？
鈍い俺でもさすがに気付いたよ

クチュ

クチュ

クチュ

京…介え

…京介っ

なま

なま

きよっ…
うっ！

ト

ト

クチュ

セックスしたときに
桐乃のイクところ
見ちゃったからさ…
あの顔が何回も
思い出されて…

んんっ…

んんっ!!

寝られたもんじゃねえよ！
マジでこんときの俺は
すっげえ寝不足だった！

でも…それだけだったら俺も
見て見ぬフリするさ
桐乃のオナニーをやめさせる
権限なんて俺にはないしな

はあ…

はっ

はあ…



問題はこつからだ...
桐乃は...オナニーして
イッたあと...

うう...



すっげえ辛そうな
声で泣くんだよ

うう...っ



すげえ苦しそうに...
延々と泣いてたんだ...

う...う



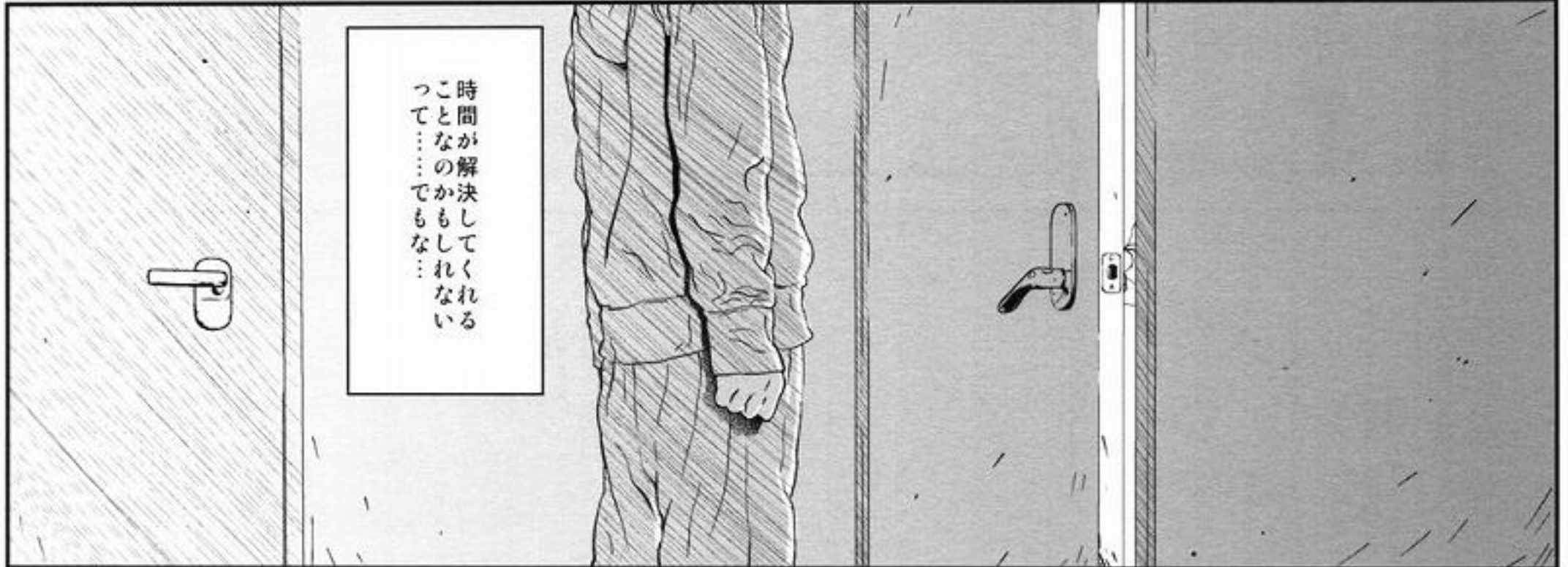
あーッツ
もう限界だ!!
耐えられん!!

ガッガッ





お互い嫌いになって
別れたわけじゃ
ないからな…
仕方がない気はしていた



時間が解決してくれ
ることなのかもしれない
…でもな…



桐乃が辛そうにして
耐えられねえんだよ…俺は！

そしてその原因が自分に
あるとしたら…
俺がなんだかしくちや
いけなないだろ？



何より…このまま
ほっといたら
桐乃が壊れてしまっ
そんな気がしたんだ…



避けてないって
言ってるんでしょ!

だから…
何で俺のこと
避けてんだって

チキ

チキ



さったく…
繰り返して何回
このやり取り!

避けてんじやねえか
俺のこと…

俺のこと避けて…
毎晩オナニして…
泣いてよ…
泣いてよ…

どう考えても
普通じやねえだろ



…

あんた あたしの部屋に
聞き耳立ててたってこと?

そういうことやめて
欲しいんだケド

プライバシーの
侵害じゃん



話逸らすんじや
ねえよ…

つかあんな
でけえ声出してたら
聞こえねえわけ

もう付き合ってる
ほっけじやないんだし…



ほつとけ
ねえよ!!



そんな辛そうな
顔してるお前を…
ほつとけるわけ…
ねえだろ…

おっ



だつて…
だつてえ…

おっ

おっ

…

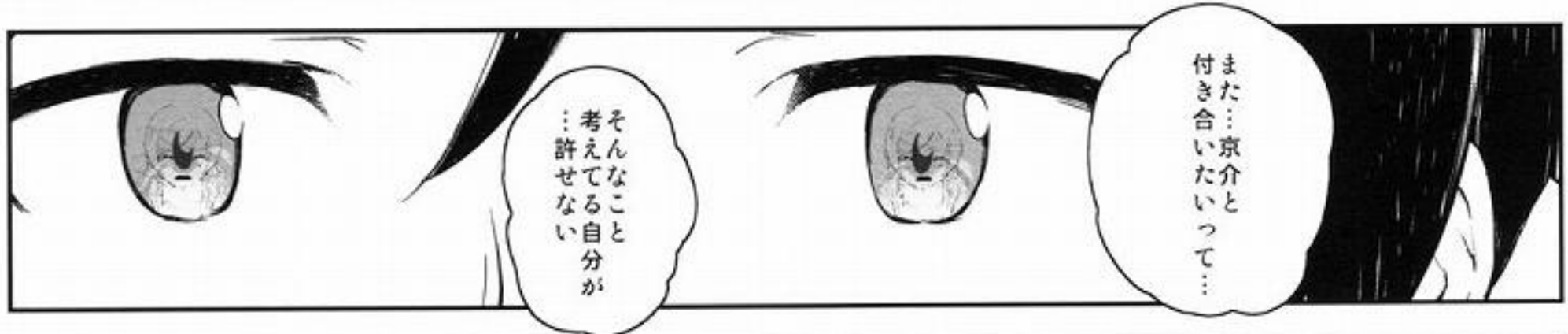



ああするしか…
ないじゃん…

京介の顔見たら…
また…付き合いたって
思っちゃうんだもん…


おっ

おっ







このときの俺の行動が正しく
なかつたってことは自分でも
よく分かってる



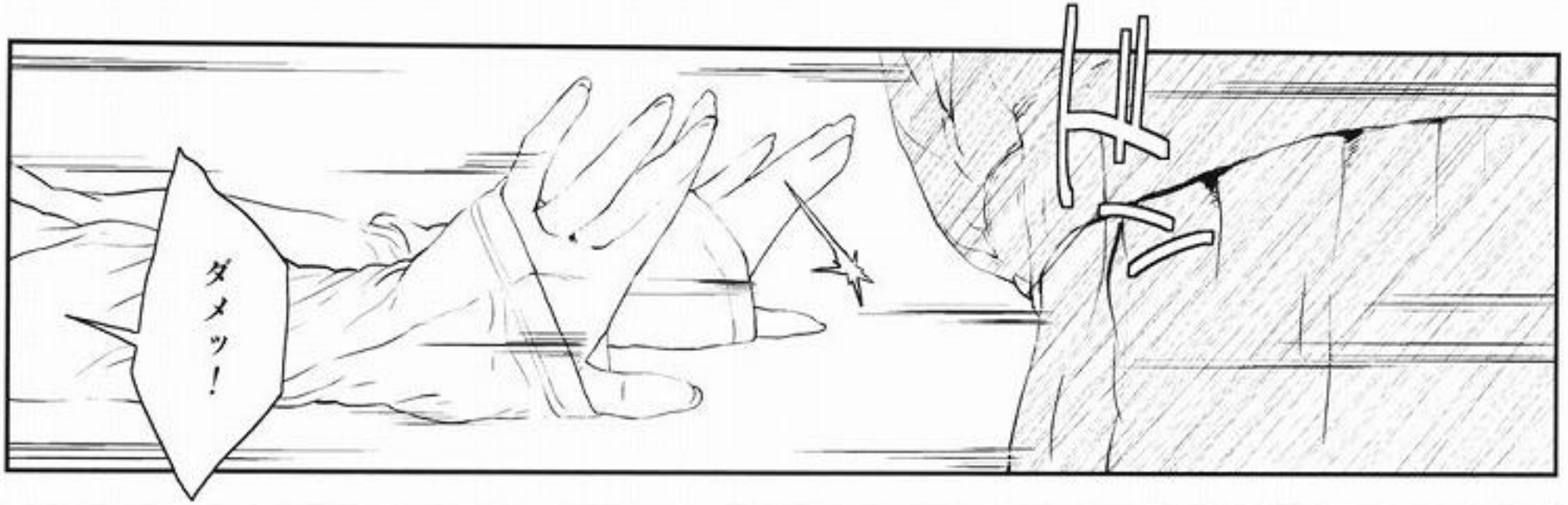
「俺たちはもう恋人同士
じゃねえんだぞ」って
突き放すのが兄貴としての
俺がとるべき正しい
行動だったってことはな…



桐乃はこうならぬために
期間限定で条件を
出したんだ…
そんなことは分かってる！
分かってたのに…



俺も桐乃と同じ
気持ちだ…
ただ桐乃と恋人同士で
思ったって…
思ってたんだよ





今のあたしは…
京介とただ恋人同士に
戻りたいって思っ
るんじゃない!

エッチしたいって…
そういう関係に
思っちゃってるの!



京介に甘えて…
毎日…して…
おつか絶対
お父さんたちに…
黒いのやあやせ
にもバレる

そしたら…
あたしだけ…
全部バラバラになる…
…なくなっちゃう…
…うなって



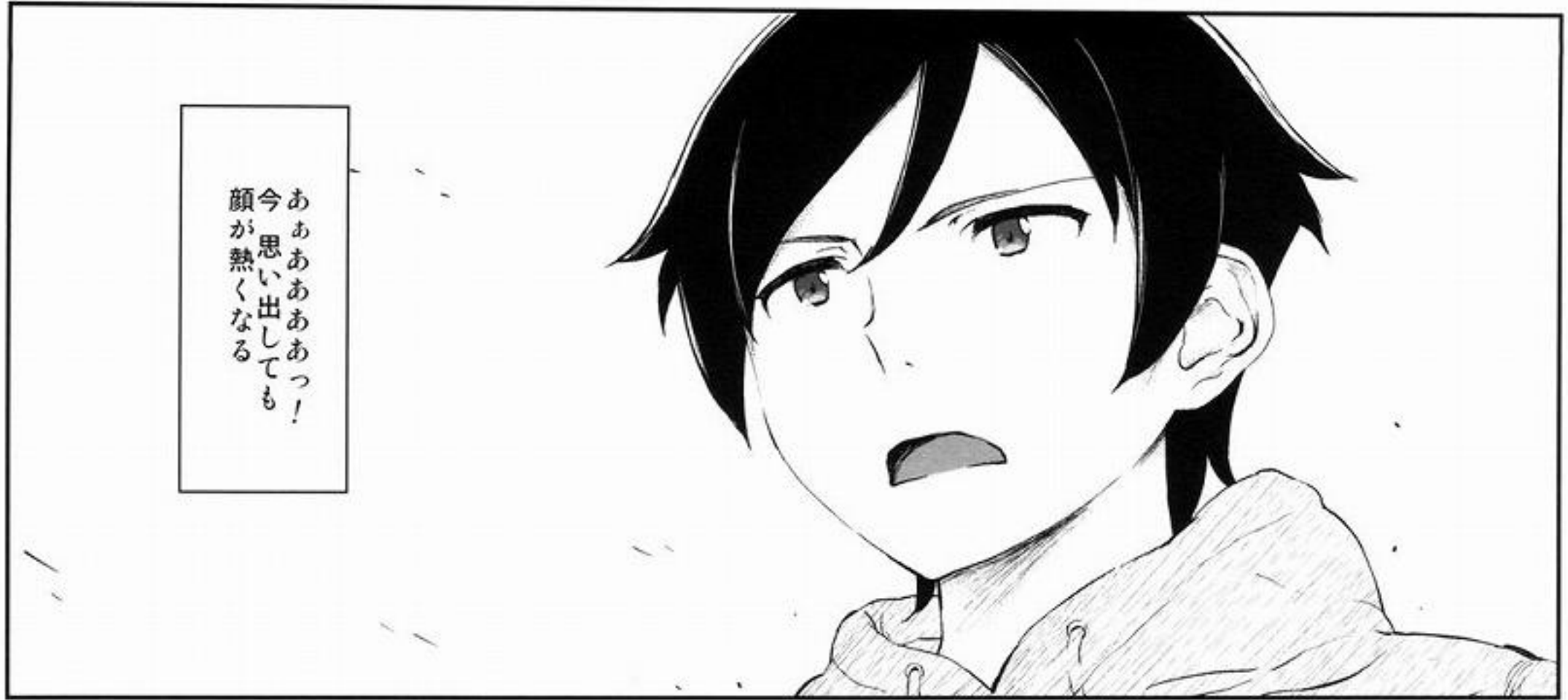
そんなこと…
そんな自分勝手は
ダメなの!

だからもう
ほっといて!!



お願いだから…

これ以上…
京介のこと…
好きにさせないで…



ああああああつ！
今思い出しても
顔が熱くなる

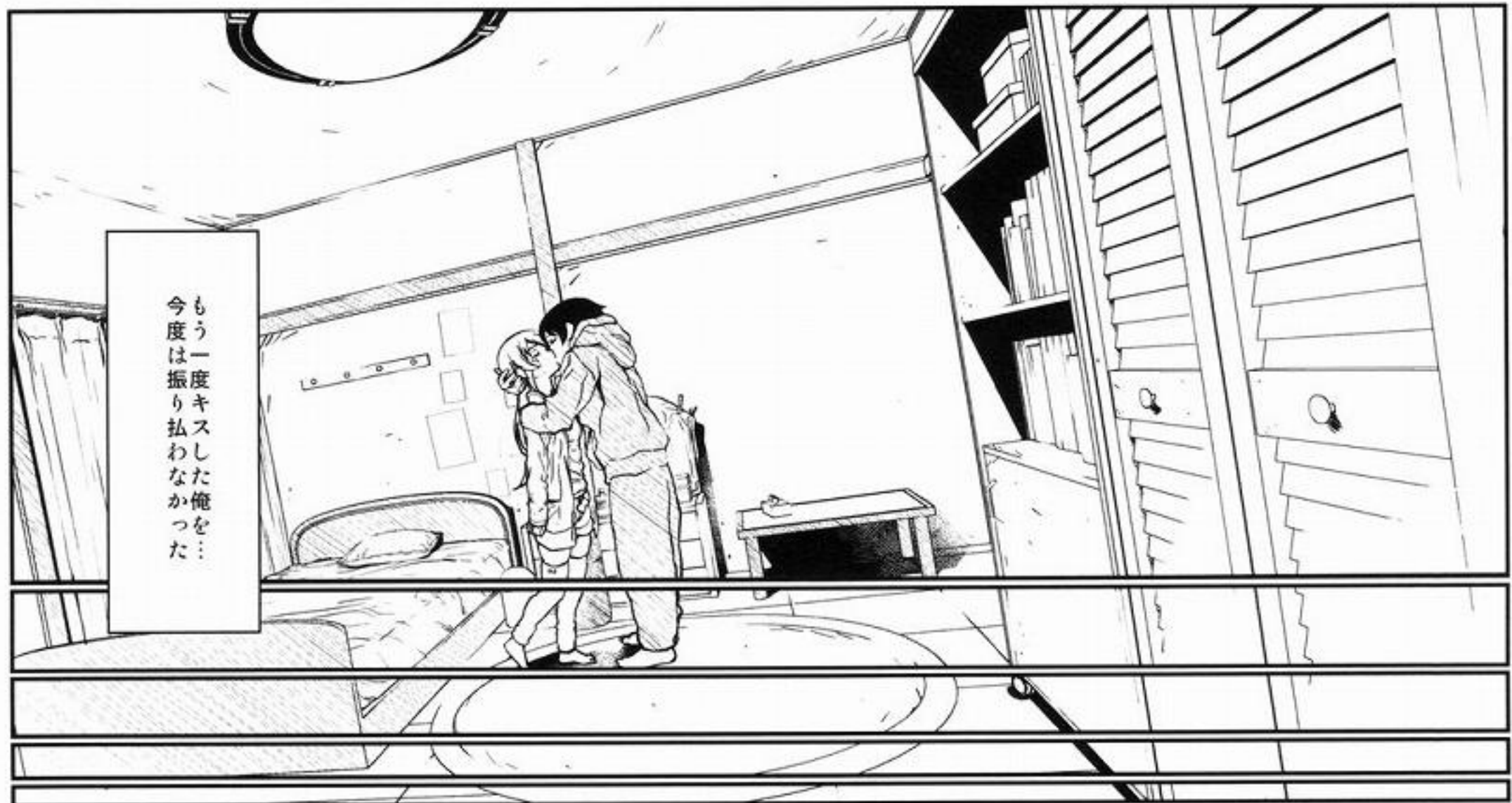


あんなセリフ：俺みたいな
地味な奴が言っても
まったく格好がつかないな
ああ：御鏡あたりなら
カッコよく決めそうだ：

でも：それを聞いた
桐乃は：笑うことも
馬鹿にすることもせず：



ただ涙を
落としながら
何度も「バカ！」
と呟き：



もう一度キスした俺を：
今度は振り払わなかった



ようという関係を持つては
現実になつては桐乃は
奥手なエロっちは改めたり
よく分かつたよ



借りてきた猫みたいに
なつてさ...
でも俺だつて経験ないから
わかんねえじゃん？

だからひたすら無言で
桐乃を弄ることしか
できなかった...



当たり前のことだけど
桐乃の体はガキの頃とは
変わってて

はあ...

胸はすげえデカく
なってるし
下も...その...マ...マン毛が
しっかり生えててよ

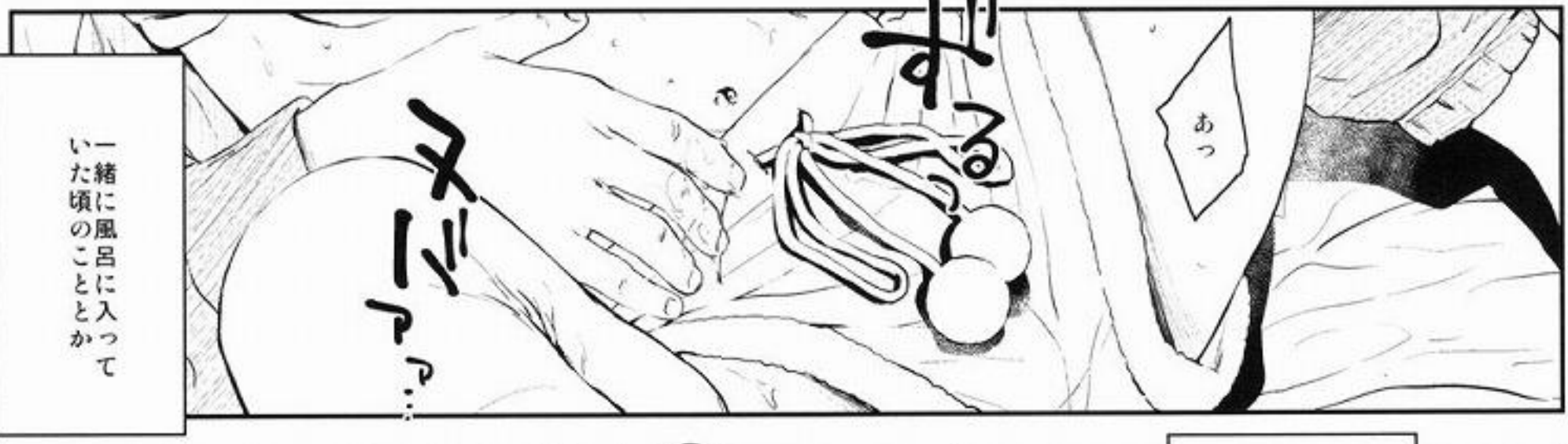


大人になった桐乃の体を
目の当たりにして...俺は
色んなことを考えていた
いや...思い出して

んっ

ん...

んっ...



一緒に風呂に入っ
た頃のこととか

あっ



洗濯物の中に今まで
見なかった子供用のブラを

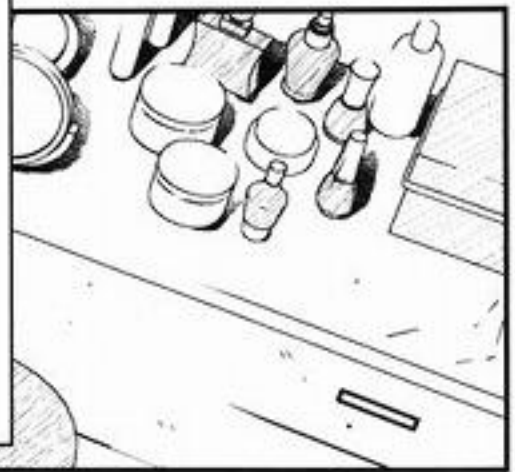
桐乃...

ん...

桐乃のパンツで
オナニーしちゃった
ときのこととか...



あれは…桐乃と一悶着
あつて…あいつの胸を
触つてしまつて…
その夜のことだ



沙織のヤツが
紛らわしい箱で
とんでもねえもんで
送つてきて…それで
あんなことに



わ…わざと触つた
あけ…いやないぞ!?
対して恋愛感情と桐乃に
か…



ましてやセックスしたい
なんて思つていなかった
思つてなかつた…よな？

それなのに…桐乃の胸も
柔らかい感じがいつまでも
手に残つて…我慢できなく
なつた…



俺は：エロゲーの影響で
女の子の甘い匂いで
思いつくだけでもだ
うっすらと表現されて
くそやん？

んっ

びゅる

んっ！

びゅる

びゅる

びゅる



でも実際は全然そんな
ことはなかった今まで
桐乃のパンツは臭いよ
臭いだいたいんだ
生臭い臭いがしたんだ

あっ……

びゅる



通り過ぎるだけで
すげえいい匂いがして
部屋もあんな甘い香り
する桐乃からは想像も
できないからその臭い
を

待っ……っ……
京……介……っ……
ト……トイ……

びゅる

びゅる





しかも…一回だけじゃ
なくて…
人生相談で桐乃との
距離が近づいたたびに…

京…介…
見ないで…



それまで知らなかった
桐乃に触れるたびに…
俺は同じことを
繰り返して…

…



反省してる！
桐乃の知らないところで
桐乃に最低なことをしたって…
だからこの件がどうなったかは
あとでちゃんと話そうと思う

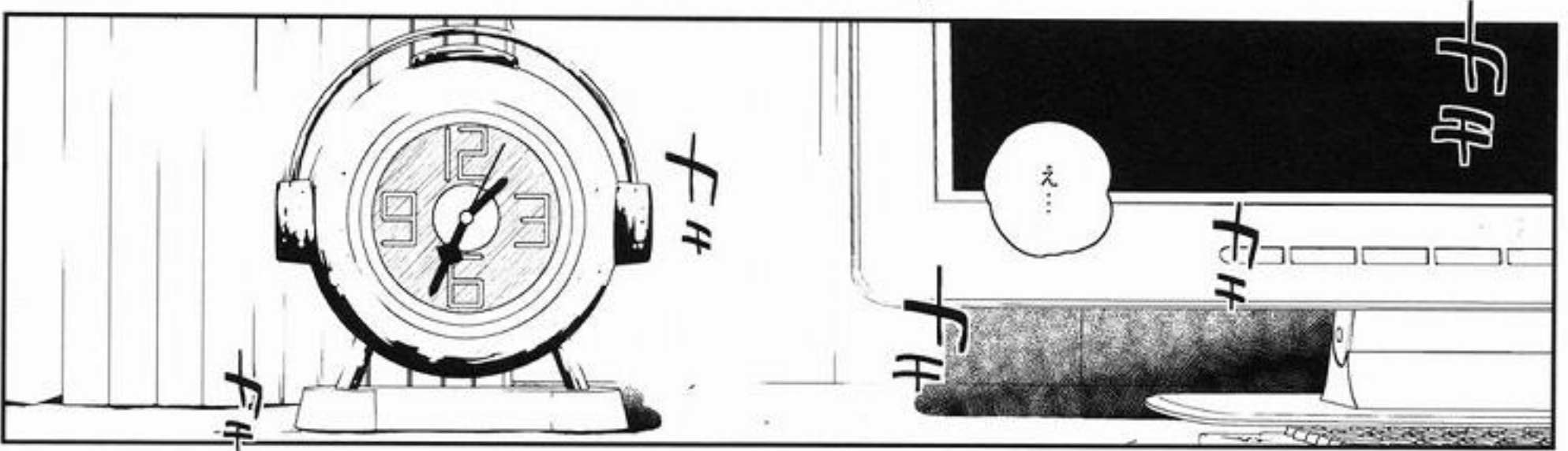
き…
桐乃！

!?



まっ…待って
京介っ

!?







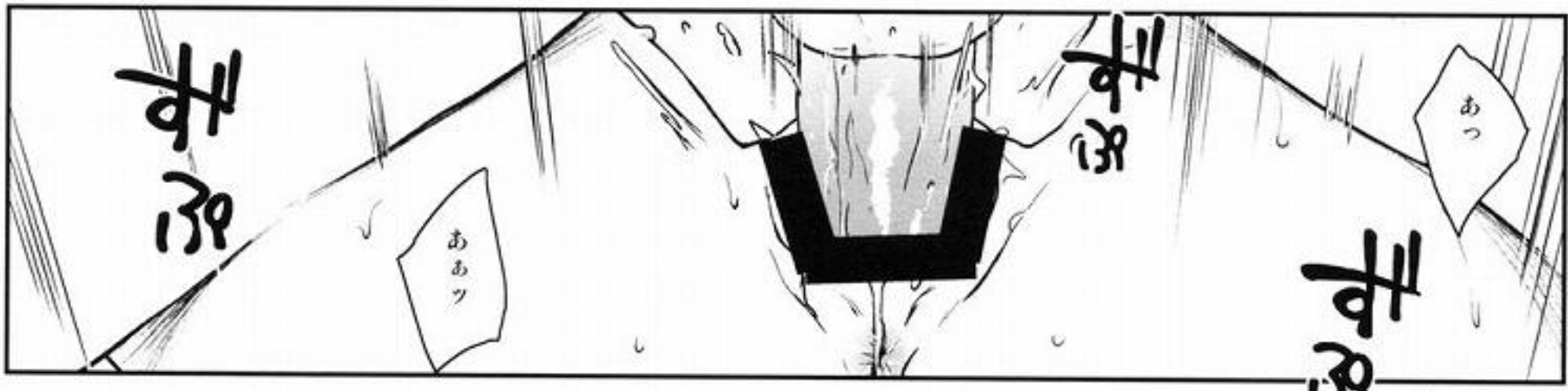
そりやそうだよな...
家族の俺でさえ
見惚れてしまう可愛さだ
他の奴らからはそれ以上
可愛く見えているんだろう

はあ...



モデルやらデザイナーやら？
もいたとか言ってたな
：今思い出しても あんま
良い気はしねえ...

んあ...



ああッ



でもそんな話を聞いて
いたから...俺は余計に
こう感じたのかもしれない

京...介...



桐乃と付き合って
...キスして
セックスして...
誰も見たことがない
桐乃の喘いでる姿を見て...



俺は今までにない
くらいに優越感を
感じている



手放したくない
可愛い妹を
独り占めして



俺は…めちやくちや
独占欲が満たされてた

ホント自分でも嫌になるよ
こんな性格…
どうすればいいんだろうな







実の兄を本気で好きになっちゃった桐乃の気持ち



京介っ！

京介え！

それはダメなんだって...
誰にも言っちゃダメなんだ...
好きでいることを
やめられないかった桐乃の気持ち



京…介…
もっ…と…

も…と…

ゴッ
ゴッ

ゴッ



墮落していく理想の兄貴に失望して…
それでもまた俺のことを
好きになってくれた桐乃の気持ち…

んっ!

ウ
ウ
ウ

ウ
ウ
ウ

んんっ!!

それを…ようやく
理解できた気がした



桐乃!!

アッ

俺だったら絶対
耐えられねえな
精神イカれて
おかしくなってるわ

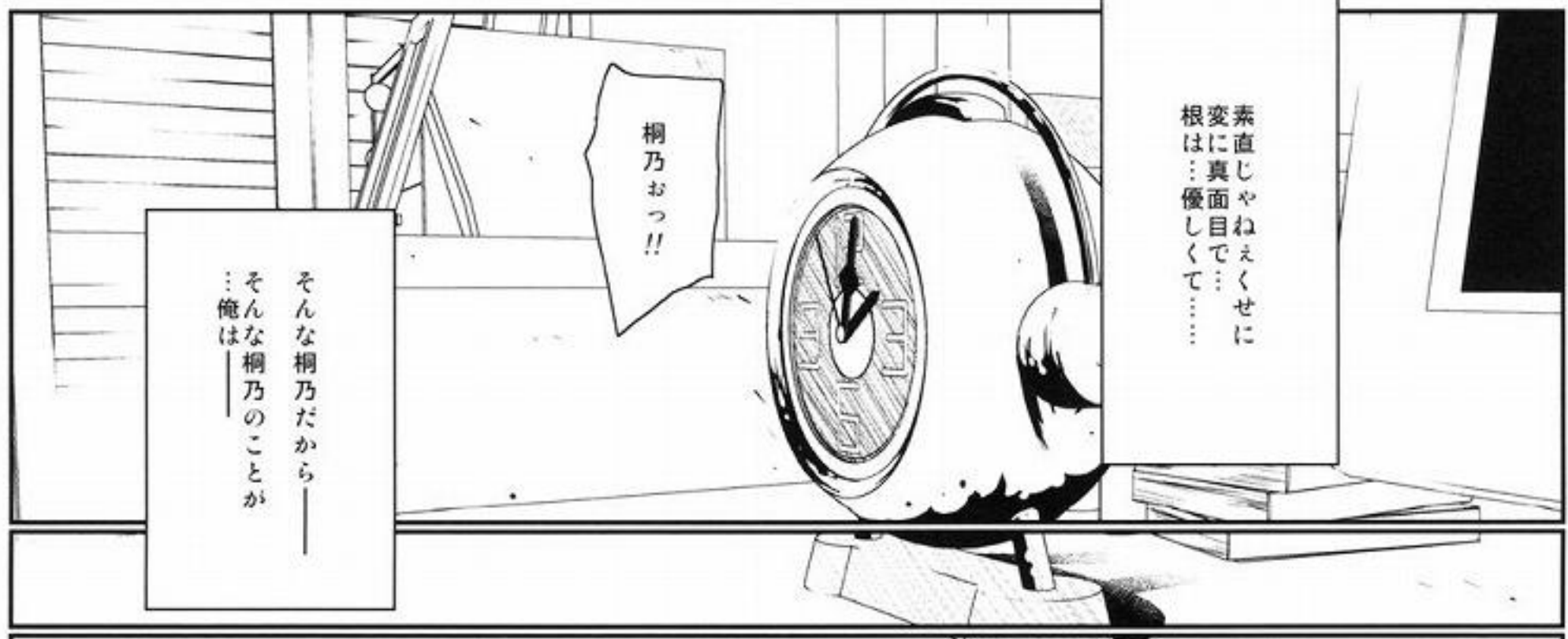


桐乃...

はっ

お前はお前の憧れてた
高坂京介よりも...
ずっとずっと...
すごいやつに...
なれてるよ...桐乃...







大丈夫か？
桐乃…

もん…
もう平気



っ！か氣い失うってな
…エロゲーみたいだな
演技…
じゃねえよな…？

なっ!?!
そんなこと
するわけ
ないでしょ!?!



そんな余裕…
ないし…

頭の中…京介で
他の事何も考えら
れなくなっ…
気付いたら…



桐乃…お前
とんだけ俺のこと…

う…うっさい！
調子のんない！
バカっ！





「ずっと俺のこと考えて
オナニーしてた」
なんてことを桐乃の口から
聞く日が来るなんてな……
恥ずかしい様な申し訳ない様な
なんとも言えない気持ちにな
ったよ

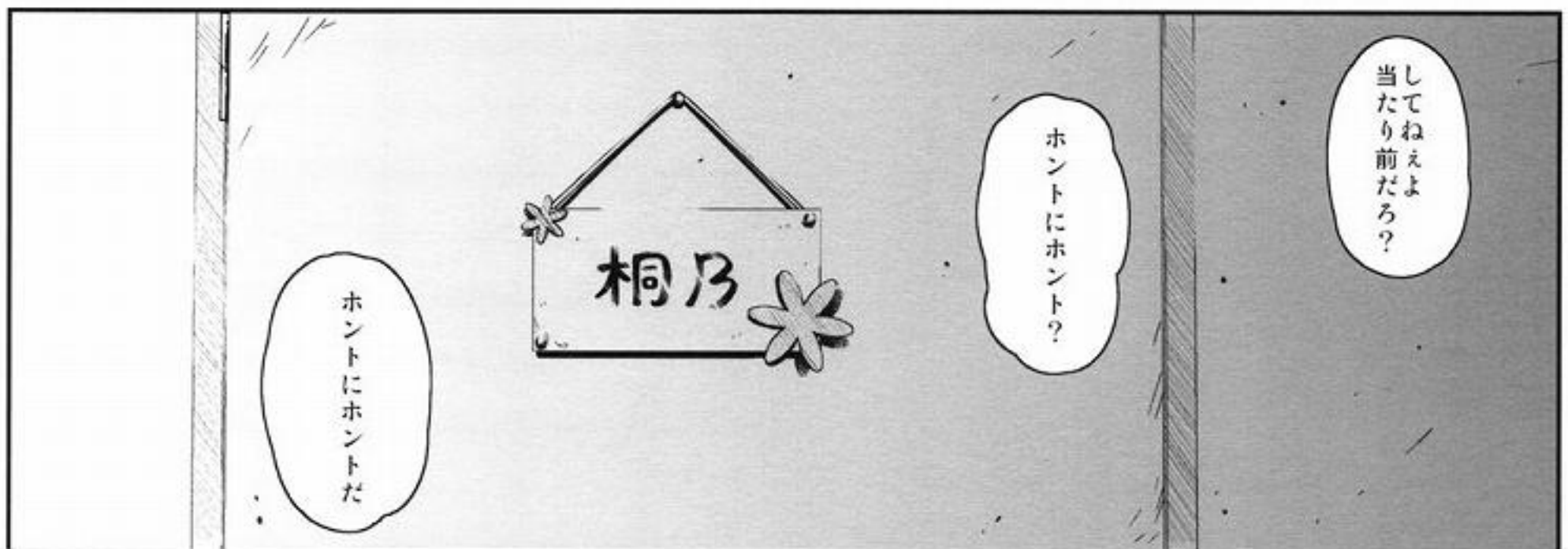


俺もようやく謝まることが
できた……桐乃のパンツで
オナニーしてたこと……
まあ……案の定殴られたけどな……
妄想ならまだしもやつは実際に……
におい嗅いじやうのはダメだよな
……反省してますマジで……



ほんの数日話せなかったが
すげなのにな……そんなやり取りが
すげえ懐かしくて……

感慨にふけてた俺に
桐乃はこう切り出したんだ
「ねえ……京介……あたしとエッチ
したこと……後悔してない？」と……



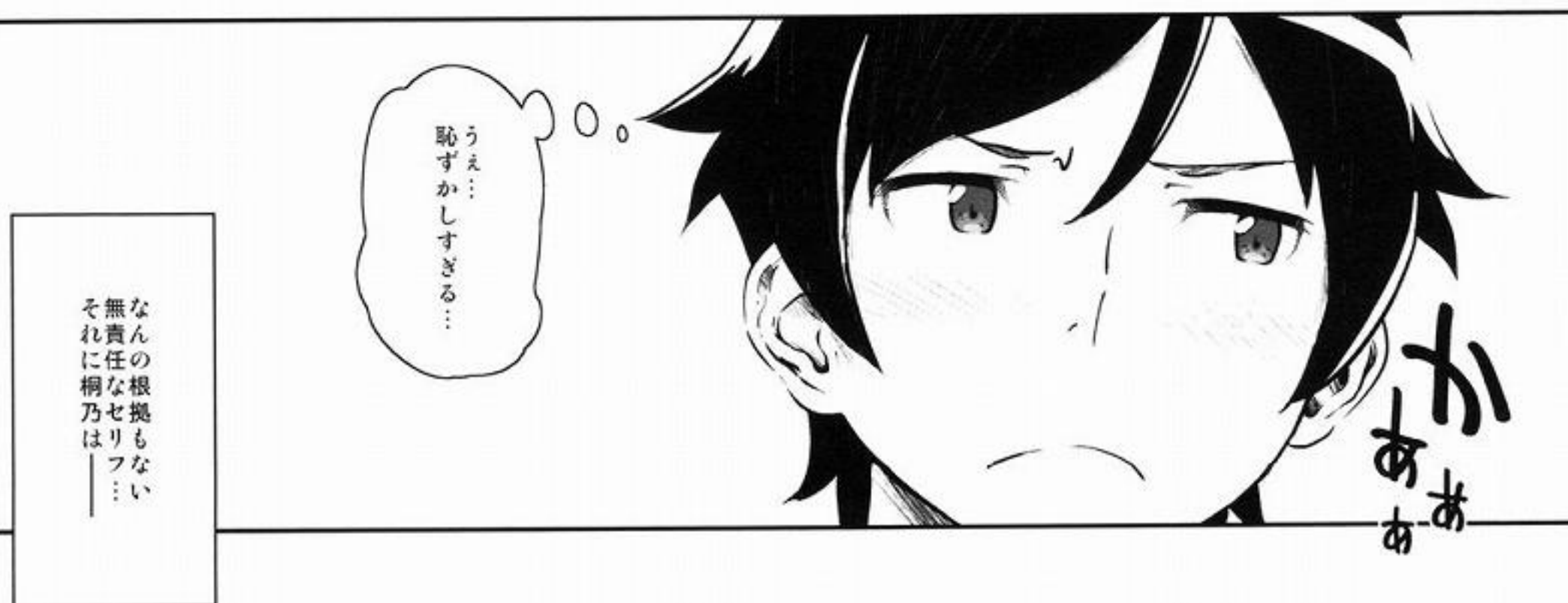
してねえよ
当たり前だろ？

ホントにホント？

ホントにホントだ







はい

眩しいくらい
の笑顔で
そう…応えてくれた



高慢で…横暴で…
いつも俺を振り回して

好きなことには一直線…
—いつも全力で頑張っ

素直じゃねえくせに
変に真面目で…
根は…優しくて…

そんな桐乃だから—
そんな桐乃のことが
…俺は大好きなんだ



星くず☆ナミダ②


発行日:2013.12.31

発行:†NIL†

発行者:フジバヤシ春

印刷所:ねこのしっぽ

MAIL>>> hal.0.fujibayashi@gmail.com



■ore no imouto ga
konnani kawaii wake ga nai